

まちかどトーク（二上地区）議事要旨

日時：令和 8 年 4 月 9 日（木）18:30～20:15

場所：二上地域交流センター

参加者：27 人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「二上地区の浸水対策」について土木維持課から説明の後、質疑応答

参加者

今ほど洪水の状況について聞いたが、現在は現況調査や今後の対策検討の段階であると理解している。対策が講じられていなければ、2 回目の洪水の際にさらに深刻な被害になっていた可能性もある。現在は道路や水路の幅なども測定していると聞くが、これは今後の対策資料として活用されるという認識。今後は調査結果についても、このような場で住民に随時説明してほしい。市の対応状況が地元では分かりにくいいため、情報共有をお願いしたい。

土木維持課

令和 5 年度に排水ポンプ車および排水ポンプユニットを合わせて 3 台導入し、その後の降雨では被害軽減に一定の効果があつたと認識している。また過去 2 回の水害で発生した逆流箇所等については、現時点で対応可能な部分はすでに対策を行った。

益田川についても、昨年の大雨で一部崩落した箇所を復旧済みであり、現在は今後の本格整備に向けた調査段階にある。

来週から業者による測量調査を実施し、降雨時の水の流れや地形状況を詳細に把握する予定である。道路の高さ、側溝、水路の高低差などを確認し、地域全体の水系を整理したうえで、今後の益田川整備に反映させる方針である。調査結果については住民にも共有し、防災対策に活用してもらう考えである。

参加者

下八ヶ用水についても調査対象と聞いているが、事前説明では、具体的にどこを調べるのか分からなかった。

土木維持課

今回の調査は現地における道路高低差、側溝、水路の状況などを確認するものである。ただし、事前説明が十分でなかった点については申し訳ない。

参加者

大雨時に水門が開いたままであった。国土交通省に水門を閉めるという話ができないのか。

土木維持課

水門管理については国土交通省から地元への依頼という形で運用されている部分があり、国が一律に水門の開閉について指示できる仕組みではなく、現場判断に委ねられて

いる側面がある。市からも水門の開閉についてなかなか言えるものではないことをご理解いただきたい。

参加者

災害時に統一的に判断する仕組みが必要ではないか。令和5年の洪水では短時間で急激に浸水した。これは人災になり得る事案である。

土木維持課

令和5年の水害では短時間で急激な水位上昇が発生し、避難指示等が発令されていたと認識している。防災メール等による情報伝達を行っているため、それに基づき早期避難をお願いしたい。

参加者

しかし実際には町内の方が夜間に一軒一軒巡回して避難を呼びかけた状況であり、防災情報だけでは対応が間に合わない場合がある。当時は（現地で）雨が降っていない中で水嵩が増した。実際に被害が起きた以上、今後も起こりうるものと認識している。線状降水帯のように予測困難な災害に対しては、現場対応の強化が必要である。また、水門の扱いに関してはもっと国交省等と議論を深めていただきたい。

市長

わずか数十分で命の危険が迫る状況であったことは理解するが、自分も職員に現地まで行って避難指示をしてこいとはなかなか言えない。一方で行政としても対応の在り方には課題があり、教訓を踏まえて今後検討すべき事項であると認識している。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

高岡市のPayPay事業（デジタルプレミアム商品券）についてである。若い世代には便利だと思うが、高齢者などデジタル決済に不慣れな人にとっては使いにくいのではないかな。なぜこのような仕組みを採用したのか、その理由を教えてほしい。

市長

確かに使いにくいという声はある。おこめ券の方が良かったという意見もある。しかし今回の事業はPayPayを中心に約5万口規模で実施している。

デジタルに不慣れな方には難しい面はあるが、水道料金の基本料金4か月分の減免も含め、トータルでできるだけ多くの人に支援が行き渡るように設計している。過去のプレミアム商品券にしろすべての人に完全に使いやすい制度は難しく、一定の課題があることも理解しているが、全体としての判断である。

参加者

少子高齢化で公園管理が困難な状況。かつては公園愛護協会として地元が管理していたが、5～6年前から花と緑の課（現 景観みどり課）へ脱退を申し出、一昨年ようやく認められた。しかし昨年は除草剤散布のみで、それ以上の対応はなかった。この現状では困るため、草刈りをお願いできないか景観みどり課へ掛け合いに行く所存だ。市長も協力願う。

市長

簡単なことではないかもしれないが、景観みどり課に伝える。

参加者

若い女性が県外に出たまま戻ってこない現状について、市長の考えを聞きたい。就職先が少ないことや、子育てと仕事の両立が難しいことが原因ではないか。

市長

まず働く場については、例えば産休・育休が取りやすい企業への支援を行う必要があると考えている。実際に女性比率が高く働きやすい企業（例えば、能作は7割が女性）もある。

また教育の面では「教育移住」という考え方もあり、高岡で教育したいと思える環境づくり、例えば4月から探究型の自分で考える力を見につける学習や小さいころからの英語教育など、子どもの力を伸ばす教育改革を進めている。

さらに住宅支援として、県外から移住された新婚世帯への家賃補助なども行っている。今後はUターン支援や地元に戻ってきた人の奨学金返還支援も検討している。どれか一つで解決する問題ではなく、総合的に進める必要があると考えている。

参加者

二上地区の旧まなび交流館について、廃止から長年経過し老朽化が進んでいる。二上山の登山口施設としての活用や簡易トイレ設置など、方向性を早く示してほしい。

市長

ご指摘の通り、施設は老朽化が進んでいる。公共施設全体の再編の中で検討しているが、現時点で具体的な方針をすぐ示すことは難しい状況である。ただし課題として認識しており、どこかの段階で方向性を示す必要があると考えている。

参加者

二上地域交流センター横の教育センターも4月から平米に移転し、現在空き施設となっている。今のところ二上地区としてどうしてほしいという要望はないが、地域としては今後どうなるのか不安であり、早めに計画の中に位置づけてほしい。

市長

その点も認識している。施設跡地の活用については、まだ白紙に近い状況である。市役所内部で検討を進めながら、地元の意見も聞きつつ方向性を決めていく必要があると考えている。